

# 知的障害特別支援学校におけるキャリア教育の実際（3）

## — 「キャリア発達に関する願う姿」と授業内容の対照から —

原田孝祐・大森響生・佐々木尚子・田淵健・中軽米璃輝\*

藤川健・藤谷憲司\*\*, 上濱龍也\*\*\*, 名古屋恒彦\*\*\*\*, 東信之・佐々木全\*\*\*\*\*

\*岩手大学大学院教育学研究科教職実践専攻, \*\*岩手大学教育学部附属特別支援学校,

\*\*\*岩手大学教育学部, \*\*\*\*植草学園大学発達教育学部, \*\*\*\*\*岩手大学大学院教育学研究科

(令和2年3月4日受理)

### 1 はじめに

中央教育審議会（2011）による「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）」によると、キャリア教育は、「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」であり、「キャリア発達」とは、「社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程」とされている。

また、2017年改訂の学習指導要領では、キャリア教育について、次の3点が重視された。①「社会に開かれた教育課程」に関して、「キャリア教育」の視点から教育課程全体を検討する、②各教科において育まれる資質・能力が子供一人ひとりのキャリア形成や社会づくりにどのように生かされるかを見据え、キャリア教育の観点から教科教育の重要性が捉え直され、学習への関心を高めることが重視されていること、③キャリア教育が職業教育の充実の基盤と位置付けられたことである。

菊地（2013）は、特別支援学校を対象とした全国調査によって、キャリア概念を理解する上で重要な部分についての理解が不十分である現状を指摘した上で、キャリア教育が単なるスキル獲得のための教育と誤解されることを危惧している。

その一方で、名古屋（2013）はキャリア教育について「特別支援教育においては、『自立と社会参加』をめざすという、教育目標の部分での重なりが大きいことから両者の親和性は高い」、「特にも特別支援教育のうちの知的障害教育では、子ども主体の学校生活を実現し、その過程で子どもたちが

自立的生活力を高め、豊かな育ちを実現していく、実践の良き伝統があることから両者の親和性は高い」と指摘している。

これらのことから、特別支援教育において、親和的に理解されるキャリア教育について、その理念を反映した実践化は課題である。これに対する試行的実践の一つに、知的障害を対象とする岩手大学附属特別支援学校（以下、本校と記す）による実践研究があり、石川（2014）は、国立特別支援教育総合研究所が示した「キャリアプランニング・マトリックス（試案）」を参考に「キャリア発達に関する願う姿」を作成した。これを図1に示した。その上で、本校の教育課程の中心である生活単元学習、作業学習において検討した。具体的には、単元・題材の目標と対照させ、「キャリア発達に関する願う姿」の内容項目としての各「観点」が対応することを確認し、それを反映した授業実践をした。

その後、坪谷・清水・名古屋他（2018）が、近年の本校におけるキャリア教育の取り組み状況についてインタビュー調査によって追跡したところ、「学校教育目標の中にキャリア教育の視点が含まれ、全職員が学校教育目標を志向することで一貫性や系統性をもたせている」との認識のもと、各学部では、各教科等を合わせた指導においてライフキャリアとワークキャリアに相当する内容について取り組まれていた。

また、上川・小山・名古屋他（2019）は、本校の近年におけるキャリア教育の取り組み状況及びその様相を明らかにすることを目的し、「キャリア発達に関する願う姿」と各学部における日常の授業実

践を対照させた。この結果、「キャリア発達に関する願う姿」における「観点」のうち、【集団参加】【目標設定】【やりがい・生きがい】【自己選択】【役割】の内容が見出され、本校のキャリア教育は、継続的な取り組みの中で、キャリア教育としての実践というよりは、日常的な教育実践として、授業の各教育場面でキャリア発達を積み上げるような教育が展開されていると解釈したという。しかし、ここでは「キャリア発達に関する願う姿」における「観点」の全てを対照し終えたわけではなく、他の「観点」すなわち、【意思表示】【場に応じた言動】【様々な情報の活用】【ルール・マナー】【働くための習慣形成】【金銭】の7つについて日常の実践と対照する必要がある。

そこで、本研究では、上川・小山・名古屋他（2019）の調査の補足として、本校におけるキャリア教育の取り組み状況及びその様相を明らかにすることを目的とする。

## 2 方法

「キャリア発達に関する願う姿」における「観点」である【意思表示】【場に応じた言動】【様々な情報の活用】【ルール・マナー】【働くための習慣形成】【金銭】を含むと解釈される本校の日常の授業実践について探索し、エピソード記述を収集した。ここでは、各学部にて大学院生5名が参与観察に従事し、任意の事例に注目した。記述されたエピソードは相互に検討し記述の妥当性を検討した。

なお、本研究は関係者の承諾を得た。

## 3 結果と考察

「キャリア発達に関する願う姿」における「観点」とそれに対応する実践事例を表1に示した。ここでは、実践事例における学部に対応した「キャリア発達に関する願う姿」中の「学部段階で願う姿」を併記し、エピソードと対照し両者の整合を確認した。

このことから、本校におけるキャリア教育の取り組み状況及びその様相として、日常の授業実践中

において、「キャリア発達に関する願う姿」における「観点」に適合する内容が取組まれているものと解釈された。

これらは、本校及び各教員において、共通認識に基づく取組みであると察せられるが、このような、日常の授業において「観点」を包摂した日常的な授業づくりの体现のための要領は、本研究において明らかにはされていない。これは今後の課題である。

## 文献

- 中央教育審議会（2011）今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）.  
[https://www.mext.go.jp/component/\\_b\\_menu/shingi/toushin/\\_icsFiles/afieldfile/2011/02/01/1301878\\_1\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/component/_b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2011/02/01/1301878_1_1.pdf)（2020.2.12.閲覧）
- 上川達也・小山聖佳・名古屋恒彦・高橋縁・安久都靖・小山芳克・岩崎正紀・中村くみ子・清水茂幸・東信之・佐々木全（2019）知的障害特別支援学校におけるキャリア教育の実践（2）—「遊びの指導」「生活単元学習」「作業学習」の授業実践を通じて—.  
 岩手大学大学院教育学研究科研究年報, 3, 249-258.
- 菊地一文（2013）特別支援学校におけるキャリア教育の推進状況と課題—特別支援学校を対象とした悉皆調査から—.  
 発達障害研究, 35(4), 269-278.
- 石川則子（2014）附属特別支援学校におけるキャリア教育の実践研究の取り組み.  
 岩手大学教育学部プロジェクト推進支援事業教育実践研究論文集, 1, 17-21.
- 文部科学省（2011）高等学校キャリア教育の手引き.  
[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/career/1312816.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/1312816.htm)（2020.2.12.閲覧）
- 名古屋恒彦（2013）知的障害教育発, キャリア教育.  
 東洋館出版社.
- 坪谷有也・清水茂幸・名古屋恒彦・佐藤信・安久都靖・小山芳克・岩崎正紀（2018）知的障害特別支援学校におけるキャリア教育の実践—附属特別支援学校の学部主事へのインタビュー調査を通して—.  
 岩手大学大学院教育学研究科研究年報, 2, 163-170.

# キャリア発達に関する願う姿 (平成25年度)

<b>【学校教育目標】</b> 児童生徒の個別的・教育的ニーズにこたえ、その成長と発達を支援し、充実した学校生活を通して、自ら学ぶ意欲をもち、日々の生きる喜びを感じ、将来の社会生活において主体的に生きていく人間の育成を目指す			
<b>【目指す児童生徒像】</b> 1 豊かな心と丈夫な体を作る人    2 生活に必要な技能を高め、意欲をもって活動する人    3 みんなと仲良く協力し合い、生活の中に楽しみをもてる人    4 自ら進んで仕事をし、働くことに生きがいをもてる人			

【各学部目標】	
小学部	中学部
1 元気に生き生きと活動する児童 2 身近なことに興味をもち、意欲的に生活する児童 3 みんなと仲良く、協力し合って活動する児童 4 手伝いや係活動などをすすんでする児童	1 丈夫な体をつくり、すこやかな心をもつ生徒 2 生活に必要な基礎的な事柄を身に付け、主体的に活動する生徒 3 みんなと協力して楽しく意欲的に活動する生徒 4 自分の役割や仕事を最後までがんばる生徒
高等部	
1 豊かな心を持ち、健康でたくましい生徒 2 社会生活に必要な知識、技能を高め、主体的に社会参加する生徒 3 周りの人に自分からかわり、みんなと協力し合える生徒 4 働くことの意義を理解し、最後までやり遂げる生徒	

※1	※2	観 点	小学部の願う姿	中学部の願う姿	高等部の願う姿
人のかかわり	【人間関係形成・社会参加】 【自己理解・自己肯定感】 【自己表現・自己実現】	【意 思 表 現】	●日常生活に必要な意思の表現を行う。	●自分の思ったことを相手に伝えようとする。	●自分の思いや考えを伝えたり、必要な支援を適切に求めたりする。
		【集 団 参 加】 ・仲間意識    ・自己理解 ・他者理解	●教師や友達とやりとりをしたり、集団へ参加したりする。	●教師や友達とともに活動し、集団の中で自分らしさやもっている力を発揮する。	●社会の一員として活動し、良好な人間関係をつくる。
		【場に応じた言動】 ・挨拶、返事・盗視    ・盗聴	●挨拶、返事をする。	●状況に応じた言動をする。	●場や状況に応じた言動をする。
働く・学ぶ・生活	【キャリア形成・自己実現】 【自己理解・自己肯定感】 【自己表現・自己実現】	【働くための習慣形成】 ・基本的生活習慣    ・体力 ・職業生活に必要な生活習慣	●生活リズムを整え、基本的な生活習慣を身に付ける。 ●すすんで運動に取り組む。	●一人でできる基本的な生活習慣を増やす。 ●活動をやり遂げる体力を身に付ける。	●職業生活に必要な習慣について知り、実行する。 ●職業生活に必要な体力を身に付ける。
		【様々な情報の活用】 ・見直し    ・情報収集と活用	●日常生活でのおおよその予定や活動に対する見直しをもつ。	●生活に必要な情報を知り、活用する。	●社会の様々な情報やサービスについて知り、活用する。
		【ル    ル    マ    ナ    ー】	●学校のきまり、日常生活の約束事を知って守る。	●集団生活のルールやマナーを守って行動する。	●社会の法律やきまり、ルールやマナーについて理解し守ろうとする。
		【金    銭】 ・金銭の扱い    ・労働と報酬	●お金の大切さを知り、お金のやり取りをする。	●体験を通してお金の役割を知り、使い方が分かる。	●働くことと給料、生活の中のお金の使い方について理解する。
		【自    己    選    択】 ・選択、好き    ・自己決定	●自分の好きな遊びや活動を選ぶ。	●自分のやりたいことや、良いと思うことを選び実行する。	●経験や情報を基に、自分の意思と責任で選び、行動する。
		【役    割】	●生活の中の自分の役割を知り、実行する。	●集団の中の自分の役割を理解し、実行する。	●社会生活の中で、自分の役割や分担を理解し実行する。
		【目    標    設    定】 ・目標意識    ・目標設定	●目標を意識し、活動する。	●目標を意識し、達成に向けて活動する。	●自分の目標を設定し、達成に向けて活動に取り組む。
		【自    己    評    価】 ・気づく、考える    ・自己肯定感 ・自分なりの工夫    ・振り返り ・自己調整	●認められたり、ほめられたりすることにより自分の良さに気づく。 ●活動の振り返り、一日の振り返りをする。	●がんばったことを振り返り、次の活動につなげる。 ●活動場面で自分なりに気づき、工夫して行動する。	●自分の活動を振り返り、良かった点や改善点を把握し、次の活動に生かす。 ●自分の課題に気づき、解決しようとする。
		【やりがい・生きがい】 ・楽しみ、やりがい ・意欲、達成感 ・思い描く	●活動を楽しみにし、楽しんで活動する。 (低)	●活動を楽しみにし、意欲的に取り組む。 (中)	●活動を楽しみにし、最後まで取り組む。 (高)
				●活動を最後までやり遂げ、達成感を得る。	●自分の仕事に最後まで取り組み、やりがいを感じる。 ●働くことと余暇とのつながりを理解し、余暇を活用する。 ●将来の生活を思い描く。

卒業後の願う姿  
社会の中で、やりがいを感じ、自分の力を発揮して働き、楽しみをもって生活する

※1＝国立特別支援教育総合研究所「特別支援教育充実のためのキャリア教育ガイドブック」より    ※2＝中央教育審議会答申より（平成23年1月）参考

図1 キャリア発達に関する願う姿



表1 キャリア発達に関する願う姿の観点とそれに対応する実践事例

「キャリア発達に関する願う姿」		実践事例
「観点」	学部；「学部段階で願う姿」	エピソード
【様々な情報 の活用】	小学部；「日常生活でのおおよその予定や活動に対してある程度見通しをもつ」	<p>小学部・日常生活の指導，朝の日課の内容を挙げる。これは，朝の衣服の着脱や朝の会準備，朝の会などによって，学校生活を行う上での基本的な日課を毎日繰り返して実施していくことで，日常生活の見通しやその日の活動に対して見通しをもつ学習である。</p> <p>例えば，小学部Aさん（5年・男子）は，ホワイトボードに示されている日程表を見て，笑顔で「クッキー」「つくろうね」などの発言をし，その日の調理活動に対しての見通しや期待感をもつことができていた。また，小学部Bさん（6年男子）は，「2時30分」「1時30分」といったその日の下校時刻や，放課後のデイサービス利用の有無についての情報をホワイトボードの掲示物から読み取り，教員に伝えて確認する様子が見られた。また，対象児童Aさんの在籍する学級では，「朝の会」「帰りの会」の場面だけでなく，一日を通して見える場所にホワイトボードを設置している。そこには，その日の予定が文字やイラストで示されており，子ども達はいつでもその情報を参照することができていた。</p> <p>その様子から，日常生活でのおおよその予定や活動に対して，ある程度見通しをもつ姿があることを解釈した。</p>
【場に応じた言動】	中学部；「状況に応じた言動をする」	<p>中学部・作業学習，単元名「作業Ⅵ 肴町販売会で販売しよう③ みんなでリンゴジャムを90個作ろう」の内容を挙げる。本単元は中学部園芸班6名と教員3名が，11月に行われる製品販売会に向けて，みんなで協力しながらリンゴジャムを作るというものである。リンゴジャムの製造工程（皮むき，芯取り，リンゴカット，ミキサー，煮込み，瓶詰め，ラベル貼り）を分担して行うことを通して，「場に応じた言動」についての学習を行っている。ここで言う「場に応じた言動」とは，一連の作業の流れに沿って仲間と共に働こうとする発言や行動である。</p> <p>例えば，白衣を着ることに抵抗を示しがちだったCさん(中1・男子生徒)は，教員の「周りのみんなを見てごらん。何をしている？」という声掛けにより，既に作業を始めている仲間の姿を見て自分が作業をすべきだと考え，「早く作業やらせて」と教員に向かって発言した後，気持ちを切り替えて白衣を着用し，スムーズに作業を開始することができた。また，その後には教員に向かって「先生，何立っているの，お仕事して」と発言する場面もあった。</p> <p>その様子から，「状況に応じた言動をする」姿があることを解釈した。</p>
【ルール・マナー】	中学部；「集団生活のルールやマナーを守って行動する」	<p>中学部・作業学習，単元名「肴町商店街で販売しよう②～みんなで『くまさんメモスタンド』を40個作ろう～」における内容を挙げる。本単元は，中学部クラフト班生徒5名と教員3名が，10月に行われる商店街での製品販売会に向け，協力しながらメモスタンドを製作するというものである。授業で作った製品を販売する際には実際に生徒自身が商店街に赴き，接客を行ったり会計をした</p>

		<p>りしている。また販売会の日だけでなく単元の始めに商店街でちらし配りを行い、周知活動を行っている。このような校外での活動や普段関わることのない地域の方との関わりを通して、「集団生活のルールやマナーを守って行動する」についての学習を行っている。</p> <p>例えば、中学部クラフト班生徒5名は、販売会当日、商店街では地域の方の迷惑にならないように必要以上に大きな声で話をしないことや、必要の無いお店に入らない等の勝手な行動を取らない様子が見られた。また製品販売会にてお客さんに対しては、「こちらは～という名前の製品で～に使います。」「(代金は)～円です。」というように、話し言葉ではなく敬語や丁寧な言葉を使って接客する様子が見られた。</p> <p>その様子から、「集団生活のルールやマナーを守って行動する」姿があることを解釈した。</p>
【自己評価】	<p>中学部；「がんばったことを振り返り、次の活動につなげる」「活動場面で自分なりに気づき、工夫して行動する」</p>	<p>中学部・体育、単元名「ディスタンス」における内容を挙げる。「ディスタンス」とは「フライングディスク」の個人競技の一つであり、ディスクを投げた距離を競うものである。本単元では、毎回の体育で「ディスタンス」を行い、それまでの過去の自分の記録更新に挑戦し続け、単元の最後には記録会を行うものである。授業の中で自分の記録を振り返ったり、その時の記録を基に「どうやったら遠くに投げられるか」を考えたりすることを通して、「振り返り、次の活動につなげる」ことの学習を行っている。</p> <p>例えば、Dさん(1年・男子)はディスタンスに取り組む中で、「先生、俺の記録何メートル？」という発言があった。そこで教員は、「D君は・・・21メートルだよ」と答えると、「じゃあ、21メートル目指すね。」と言って、自分の順番が来ると目印の旗(生徒のそれまでの最高記録の場所に置かれている)に向かってディスクを投げていた。また、記録に届かなかった時には、「風があっち向きに吹いているから、こっちむいて投げれば真っすぐ飛ぶね」と、体の向きと目線を変えてディスクを投げる場面もあった。</p> <p>その様子から、「がんばったことを振り返り、次の活動につなげる」姿や、「活動場面で自分なりに気づき、工夫して行動する」姿があることを解釈した。</p>
【働くため習慣形成】	<p>高等部；「職業生活に必要な習慣について知り、実行する」「職業生活に必要な体力を身に付ける」</p>	<p>高等部・作業学習、単元名「附特ベンチを作ろう～7月ガンプ工房販売会で販売しよう～」における内容を挙げる。本単元は、高等部木工班生徒7名と教員4名が、7月に行われる製品販売会に向け、協力しながらベンチを製作するというものである。毎日の作業学習では2校時から4校時までの時間を合わせて行い、生徒たちは10分の休憩を挟んで、前半と後半それぞれ1時間、同じ工程を担当している。このことにより、生徒たちは1時間という普通の授業よりも長い時間、集中して作業を行い、「職業生活に必要な体力を身に付ける」ことを学習している。</p> <p>例えば、生徒Eさん(3年・男子)は、単元の始め、作業を行うことができず、好きなビーズを使って遊んでいる姿ばかりが目立っていた。しかし、単元が進むにつれて、教員や仲間の支援を受けながら、少しずつ作業をする時間が増え、単元が終わるころには、取り組み状況に合わせて適宜休憩を取りながらも、最後まで粘り強く作業に向かう姿が見られた。</p>

		<p>また、生徒Fさん（3年・女子）は、毎日の作業学習に対する見通しをもち、自分から進んで授業前に目標を書いたり、黒板に書いてある自身の作業分担の準備をしたりする様子や、作業中に分からないことがあったら相談し、担当する行程が終わったら報告することができている。</p> <p>その様子から、「職業生活に必要な習慣について知り、実行する」姿、「職業生活に必要な体力を身に付ける」姿があることを解釈した。</p>
【意思表現】	高等部；「自分の思いや考えを伝えることや、必要な支援を求める」	<p>高等部・作業学習，手織り班の活動を挙げる。手織り班では、織り機での織り作業が中心となる。織る前段階の準備である経糸張りや緯糸の糸巻準備，織り機での織り布作り，織った布を加工する製品作り等個々が自分の役割を担って作業に取り組んでいる。大きくは織り機を使った織り作業と織るための準備となる糸巻作業の二つがある。織り機を使った織り作業は一人ずつ織り機に向かう個人作業になる。そのため、必要に応じて報告や相談，連絡をしなければ，活動の停滞につながる。例えば，年度初めの慣れない段階で，各々の生徒は，どのように報告や依頼をすればいいのか分からない様子があった。そこで，「依頼の仕方カード」や困った時の「報告カード」を織り機に貼った。特に，織が進んでくる，ある一定のところでは，巻き取りが必要となる。巻き取りは教員の作業となっているため，「巻き取りをお願いします」と伝えなければならない。巻き取り位置が分かるように補助カードを織り機に付け，それを目印に報告することとした。すると言うことができる生徒は自信をもって言うことができ，また表出の難しい生徒であっても声を出し，伝えようとする様子が見られ，確実な作業につながっていた。また，想定外の織り機の不具合が生ずることもあったが，自分から「先生，助けて下さい」と困りを伝える様子も見られた。</p> <p>その様子から，「自分の思いや考えを伝えることや，必要な支援を求める」姿があることを解釈した。</p>
【金銭】	高等部；「働くことと給料，生活の中のお金の使い方について理解する」	<p>高等部・作業学習，単元名「附特ベンチを作ろう～7月ガンフ工房販売会で販売しよう～」における内容を挙げる。授業で作った製品を販売し，売上金の計算をしたり，給料を貰い金銭出納帳の計算をしたりすることを通して，「働くことと給料」についての学習を行っている。ここでいう給料とは，便宜的かつ模擬的なものであり，売上金を個人で分担して管理することを学習活動としたものである。例えば，製品販売会後の作業レクリエーションと称する打ち上げでは，作業学習で得た給料を使って市内の施設でカラオケを楽しんだ。この事後学習で，Gさん（3年・女）は，金銭出納帳の計算を行った。金銭出納帳には，今まで得た給料の金額と，今回のレクリエーションで支払ったお金を計算し，残金を算出した。その際，「（残金が減ったので）また，働かなきゃいけない」という発言があった。</p> <p>その様子から，「働くことと給料，生活の中のお金の使い方について理解する」姿があることを解釈した。</p>